

金婚式を迎えて

大西 光男

今年、2022年3月某日、結婚50周年の記念日を迎えた。
世間では結婚記念日は夫婦の絆を深め、感謝の気持ちを伝えるアニバーサリーといわれている。

振り返ってみると、結婚記念日の特別な思い出が全くと言っていいほどない。
たぶん新婚当初はささやかではあるが、二人で何か祝ったかもしれない。ところが記念写真や記念のプレゼントなどの証拠物件が残っていない。

昨年の夏ころ、コロナ禍の最盛期、『来年は金婚式だなあ！』とふと思いついて何かサプライズを
と考え、今年3月頃にはコロナが下火になることを期待して、女房には内緒で豪華客船によるクルーズ旅行を申し込んでいた。クルーズ旅行選んだのはせわしない日常を離れ、ゆったり、のんびり自由な時間を持てるという宣伝文句に興味を惹かれたのと荷物を持って移動することがないこと。

豪華客船と言っても飛鳥Ⅱやにっぽん丸のクルーズは高価なので外国船（外航船は飛鳥やにっぽん丸に比べると旅程が長いわりに旅費が安い）が日本の港町を巡り、一度ロシアや台湾の港に立ち寄り日本に戻ってくるカジュアル船の旅。そして、17万トン（19階建てのビルに相当する高さ）という飛鳥Ⅱやにっぽん丸よりはるかに大きい船の旅を体験してみようと思った。



クルージングに乗船予定であった
MSC ベリッシマ（17万トン）

全長：316m
全幅：43m
デッキ数：19層

しかし、年明け早々、コロナは下火傾向にあったが、クルーズはキャンセルとなった。

そこで、計画は2泊3日の伊豆・修善寺温泉での『ゆったり』に大幅縮小することに・・・。
（別に NHK 大河ドラマを意識したわけではないが、温泉でのんびりしたいという女房の意見で修善寺温泉となった。）

旅程は、 修善寺温泉 ～ 伊豆の国市 ～ 三島 ～ 沼津 を2泊3日で巡った。

1. 初日は JR 東海道線三島駅から伊豆箱根鉄道に乗り継ぎ修善寺温泉を散策した。
修善寺温泉は伊豆の小京都ともいわれるそうだ。
竹林の小径、桂川、渡月橋（修善寺川『通称桂川』にかかると橋）など京都の名所になぞらえた観光ポイントがいくつかある。
たより35号で紹介された斎藤さんの京都旅行の旅行記の画像と比べてみてください。
かなり欲目に見ているようですが、コンパクトな京都と言えなくもなさそうです。

- * 竹林の小径（ちくりんのみち）は京都嵐山にある観光名所
- * 渡月橋は京都嵐山あたりで桂川にかかる橋でやはり京都の観光名所



竹林の小径



修善寺川（通称 桂川）



渡月橋



空海が独鈷（とっこ）杵で岩を砕いて霊泉を噴出させたといわれる修善寺温泉最古の湯（独鈷の湯）と桂川と（渡月橋）

修善寺温泉では女房推奨の旅館『菊屋』に泊まりたかったが、満室であった。『湯回廊 菊屋』とは夏目漱石が静養したことで有名な老舗旅館で湯殿には館内に回らされた廊下を辿っていくことから『湯回廊』なのか？ 7種類の貸し切り家族風呂が無料なので楽しみにしていたが・・・。修善寺温泉では目星をつけた宿がすべて満室でやむなく伊豆長岡温泉に宿をとった。



湯回廊 菊屋

- 翌日は伊豆箱根鉄道で三島駅に戻り、三島市内の「楽寿園」に湧き出す富士山の伏流水が三島市街を流れ、約 1.5km 下流のため池まで流れる清流「源兵衛川」の中を散歩した。

源兵衛川は農業の灌漑用水路として作られたとのこと。三島の観光名所の一つらしい。（川の中に置き石が並べられているので散歩できる）ここから歩いて10分ほどの源頼朝が源氏再興を祈願した三嶋大社に参拝した。

境内参道沿いの観光名所として有名な『しだれ桜』はまだつぼみも付けておらず残念であった。

丁度、昼時になったので駅前で修善寺そばを食した後、今旅行の目的の一つである日本最長の人道吊橋、箱根西麓・三島大吊橋、愛称『三島スカイウォーク』からの富士山の眺望を楽しみに JR 三島駅前から路線バスで約30分。

朝はあれほど晴れていた青空が到着した時はどんよりと曇っており、眼前に広がる富士山の美しく壮大な姿をみるができなかった。

スカイウォークを先に回ればと・・・がっくり！！がっくり！！



三嶋大社山門



源兵衛川



澄み切った伏流水が流れる源兵衛川



3. 最終日は『金婚式』の日

感慨深い日になるかと期待していたが、冷たい雨が降るいつもの平凡な朝だった。

50年間、子育て、毎日の飯作り、ご近所付き合い、健康のこと、任せっきりでした。

大厄を無難に過ごせた後厄の年、交通事故で大怪我をして半年以上入院したときも毎日笑顔を見せてくれ、世帯主不在の家庭をしっかり守ってくれました。

いろいろ感謝をすることは数えきれないほどあったけれど、感謝の気持ちを口にすることはなかった。

今年も心から感謝しているのに『50年間ありがとう』の一言が結局言えなかった金婚式の記念日が過ぎてしまった。

次は、55周年の『エメラルド婚式』をお互い健康で元気に迎えられればと思う。

- ◆ちなみに 結婚記念日を祝う風習はイギリスが発祥だそうです。日本では明治27年に明治天皇が銀婚式のお祝いをされたことがきっかけに広まったとのこと。